

『アクシスジーニアス英和辞典』（AG）： G5から生まれた中級学習辞典

中邑光男



AGは『ジーニアス英和辞典』（第5版）（G5）から生まれた中級学習者用の学習辞典である。本稿では、G5の内容をベースにして、どのようにAGを中級学習者向けの辞書に仕上げたのか、実例を挙げながら解説していきたい。

◆語義、訳語について

AGでは語義や訳語の数を、学習者の立場から調整している。

語義を減らした例としては saturate を挙げることができる。下の(1)のようにG5では「[[[軍]]]」のような専門語を含め6つの語義を示した。一方、AGでは、3つの語義に絞り込んだ。

- (1) ***sat-u-rate** /sætʃəreɪt/ (動) ①【正式】…を水浸しにする；…をずぶぬれにする；…を〔水などに〕浸す；…を〔水などで〕十分に湿らせる(soak)〔with〕(↔ dry) Ⅱ The ground became **saturated** with torrential rain. 地面は大雨により水浸しになった / air **saturated** with moisture 湿った空気。②〈物・場所〉を〔…で〕一杯にする、満たす〔with〕 Ⅱ The air was **saturated** with the perfume of flowers. あたりには花の香りが満ちあふれていた。③【経】〈市場〉に商品を過剰供給する Ⅱ The market for this product is **saturated**. この製品の市場は飽和状態だ。④【化】〈物質〉を飽和させる Ⅱ **saturate** water with salt 水を食塩で飽和させる。⑤【正式】〈人〉を〔…に〕没頭〔熱中〕させる〔with, in〕 Ⅱ ◆通例受身または **saturate** oneself Ⅱ She is **saturated** with American drama. 彼女はアメリカ演劇に没頭している。⑥【軍】…に集中攻撃を加える。 — ⑧ ⑨ ⑩ [通例 ~s] = saturated fat.

- (2) ***sat-u-rate** /sætʃəreɪt/ (動) ①【かたい】…を水浸しにする；…をずぶぬれにする；…を〔水などに〕浸す；…を〔水などで〕十分に湿らせる(soak)〔with〕(↔ dry) Ⅱ The ground became **saturated** with the heavy rain. 地面は大雨で水浸しになった。②〈物・場所〉を〔…で〕一杯にする、満たす〔with〕 Ⅱ The air was **saturated** with the perfume of flowers. あたりには花の香りが満ちあふれていた。③【化】〈物質〉を飽和させる Ⅱ **saturate** water with salt 水を食塩で飽和させる。

語義の数を増やした例としては、catch がある。G5では、語義4として「〈言葉・文字など〉をその場で聞いて〔見て〕わかる」と「〈人・小説・写真などが〉…を正確に描写〔再現〕する、うまくとらえる」という訳語をまとめて示している。しかし、AGではこれらの訳語は学習上重要なものであると判断し、それぞれを独立させた。

G5には180の「類語比較」のコラムがあるが(図(3))、さらに中級学習者に必要だと思われる項目を書き加え、221の「使い分け」コラム(図(4))として誕生させた。

- (3) **類語比較** [trip, journey, travel, tour, voyage] **trip** はいろいろな旅行を意味する最も一般的な語で、出発点に帰る旅という含意がある。round, quick, short などの形容詞がよく前につく。journey は特別な意味や目的のある旅行で、特に時間も距離も長いものをいう。personal, long, spiritual とよく連語する。travel は比較的長期の旅行で、international, foreign などと連語することが多い。名詞よりも動詞としてよく用いられる。tour は周遊〔観光〕旅行。voyage は船・飛行機・宇宙船による長い旅行：He made a business trip [×journey, ×travel, ×tour, ×voyage] to Italy. 彼は仕事でイタリアに出張した / Your tour [trip, ×travel, ×journey, ×voyage] includes a one-day excursion to Disneyland. あなたのツアーにはディズニーランドへの1日の小旅行が含まれています / He took a voyage [journey, trip, tour, ×travel] by boat from Kobe to Hawaii. 彼は神戸からハワイまで船旅をした。

- (4) **使い分け** 「旅行」
trip 「旅行」を表す最も一般的な語。
journey 長期間・長距離の「旅行」のこと。
travel 長期間の、主に海外での「旅行」のこと。
tour 観光のため周遊する「旅行」を表す。
excursion 観光のための団体での短期の「旅行」。

また成り立ちを知ることによって理解しやすくなる成句には由来を適宜書き添えた。例えば

「go [walk] down the aisle 《略式》結婚する」という成句には、「《◆結婚式で教会の通路を歩くことから》」という注記を書き添えた。

ジェスチャーを示す表現には、イラストを添えた。例えば、下の(5)の give O a leg up は、訳語だけを見ると help とあまり違わないように思われるが、イラストによって、この表現の本質的な意味がわかるだろう（ジェスチャーとイラストについて詳しくは10～11ページを参照）。

(5)

give O a lég up 《くだけた》(1) O<人>が上がる[登る, 乗る]のを助ける。
(2) O<人>を助けて困難を乗り切らせる。
hàve légs 《くだけた》<ニュースなどが>長く人々の関心を引く。
nót hàve a lég to stánd on 《くだけた》(議論・主張などの)根拠を持っていない, 寄って立つところがない。



give O a leg up

◆用例について

用例は、AG と G5の違いのうち最も大きなものである。ここではそのうち6つを紹介したい。

第1に、AG では、用例を必要十分な数に絞り込んだ。例えば、下の(6)のように、G5の marriage の語義①では用例を10示しているのに対し、AG では、(7)の5つの用例で十分だと考えた。

(6)

— ④ (●) --riag'es/-iz/) ① ㊦ […との/…間の]結婚, 結婚生活[to, with/between]; ㊧ 結婚していること[状態] || 「a happy [an unhappy] marriage 幸福な[不幸な]結婚 / a marriage ceremony 結婚式 / his marriage to [with] her 彼女との彼の結婚(生活) / a marriage made in heaven 完璧で幸せな結婚(生活) / give one's daughter (away) in marriage to him (正式) 娘を彼に嫁(ㇿ)がせる / the breakdown [break-up] of (a) marriage 結婚生活の破局 / propose marriage to her 彼女に結婚を申し込む / a child born outside of marriage (主)に米) 婚外子 / My parents disapprove of our marriage. 両親は私たちの結婚に反対だ / The romance has gone out of our marriage. 私たちの結婚生活にはもう愛はありません 《◆ We've drifted apart. / The honeymoon is over. などと言ってもだいたい同じ》. ㊦ an arranged marriage (親などによる) 取り決め結婚 / a civil [church] marriage 届出[教会]結婚 / a common-law marriage 慣習法上の結婚 [内縁関係・同棲(ㇿ)状態のこと]。

(7)

① ㊦ […との/…間の]結婚, 結婚生活(to, with / between); ㊧ 結婚していること[状態] || 「a happy [an unhappy] marriage 幸福な[不幸な]結婚 / 「a love [an arranged] marriage 恋愛[見合い]結婚 / his marriage to [with] her 彼女との彼の結婚(生活) / give one's daughter (away) in marriage to him 《かたい》 娘を彼に嫁(ㇿ)がせる / propose marriage to her 彼女に結婚を申し込む。

第2に、用例を中級学習者にわかりやすいものにした。例えば、lie は SVC の文型で使われる時「…の状態で横たわる」という意味を表す。G5の用例は「lie spreadeagled 大の字に横たわる」であるが、中級学習者は spreadeagled でつまずくにちがいない。そこで AG では「lie sick in bed 病気で床についている」に代えた。

第3に、必要に応じて、用例に注記を加えた。例えば、G5の helpful の項の用例の「It is really helpful for you to have a cell phone. 携帯電話を持っていると本当に役に立つよ」を考えてみよう。これは「携帯電話の便利さを述べている」文だが、学習者によっては「聞き手に携帯電話を持つことを勧めている」文だともうかもしれない。しかし、後者の意味でこの文を使って話そうとする場合、そのままでは be 動詞の断定調が強すぎるという問題がある。そこで AG では「聞き手に携帯電話を持つことを勧める場合は It would be really helpful for you to...」という注記をつけた。

第4に、用例の訳語を「直訳→意識」の順序で示した。例えば、「<人>を失望させる、<人>の期待を裏切る」という意味を表す let down という成句を取りあげよう。例文は G5も AG も I won't let you down. である。この英文の訳は、G5では「がんばります (失望はさせません)」であり、「意識→直訳」の順序で並べている。しかし AG では「あなたに失望させません (=がんばります)」のように「直訳→意識」の順序にした。中級学習者にとっては、まず基本的な訳語に触れ、そのあとで文脈に沿った意味を確認する方がわかりやすいと考えたからだ。

第5に、イコール記号で結んだ2つ以上の文のニュアンスの違いについて簡潔に示した。例えば、G5の見出し語の strike の語義②では「She struck me on the chin. = She struck my chin. 彼女は私のあごをなぐった」と示しているが、AGではこれに「《◆前者は me に、後者は my chin に重点がある》」と書き加えた。

第6に、よく使う単語の組み合わせをまとめた「コロケーション+」の数を、G5の35からAGでは64に増やした。下の(8)はAGの見出し語 product の「コロケーション+」である。

(8)

コロケーション+

●【名詞 / 形容詞+product】 an agricultural **product** 農産物 / a food **product** 食品 / a beauty [cosmetic] **product** 化粧品 / a commercial **product** 商品 / the finished **product** 完成品。

●【動詞+product】 design a **product** 製品をデザインする / create a **product** 製品を作り出す / make [manufacture] a **product** 製品を作る / order a **product** 製品を注文する / sell [buy, purchase] a **product** 製品を売る[買う, 購入する]。

◆語法情報について

G5は語法に関する情報が充実しているという定評がある。AGでもその伝統を踏襲しつつ、G5の語法情報を重要な点に絞り込むと同時に、必要ならばアップデートした。例えば「…のように、…と同じように」という意味を表す接続詞 like については、G5では「この用法を誤用とみなす人も」と説明したが、AGでは現在の信頼できる語法書・文法書を参考にして「以前はこの用法を誤用とみなす人もいたが、今は《くだけた》ではふつうに用いられる」とアップデートした(語法情報について詳しくは5～7ページを参照)。

また、語法情報を学習者にとってさらにわかりやすいものにするために、AGでは、Question Box と、Typical Mistakes 100 という新しい「軸」を導入した。Question Box は、主にG5に

ある「語法」から、高校生に特に注意してほしい項目について、質問に答えるという形にして、解説したものである。Question Box は『ジーニアス総合英語』にもあるコラムだが、AGにもこれを設けることによって、英語は「暗記科目」であるという考えを持っている学習者に、英語は「理解科目」でもあることを伝えたいと考えた(Question Box について詳しくは5～7ページを参照)。

さらに、語法情報のうち、中級学習者が特に間違えやすい間違いを集め Typical Mistakes 100 という巻末資料にした。高校生にとっては無限にあるように思えるかもしれないが、これによって、学習者は試験によく出るところを重点的に学習することが可能になるだろう。そしてこの Typical Mistakes 100 や、上述の Question Box を通じて語法の面白さに目覚めた学習者には、AGの900を越す「語法」情報が知的好奇心を満たすにちがいない(Typical Mistakes 100 について詳しくは8～9ページを参照)。

◆おわりに

AGの編纂にあたっては、学習者のニーズを考え、学習上の確かな「軸」となるために、G5に対して細かなチューニングを数多く施した。本稿で紹介した「軸」以外にも、多義語に語義を視覚的に示した「語義ツリー」、前置詞に示した「イメージ図」、また発信に役立つ表現を集めた Let's Talk in English! という巻頭カラーページ、チャンクで覚えておくくと便利な表現を挙げた「チャンク英会話」などの特徴ある学習の軸を設けた。

英語学習者に求められる力は時代とともに変化していくにちがいない。私たちは今後も学習者のニーズに向き合い、AGをチューニングアップし続けるつもりである。

(なかむら みつお・関西大学教授)